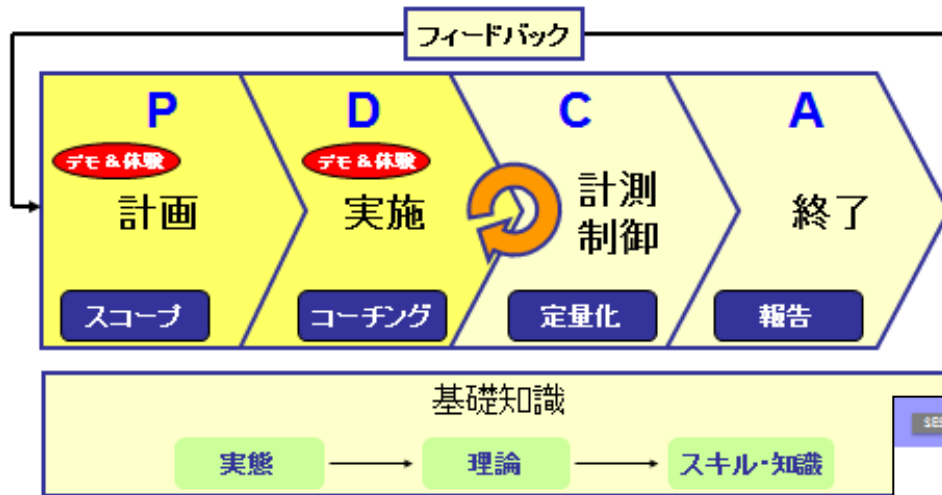


SESSAME 組込みOJTセミナー ＜イメージ紹介資料＞



NPO法人 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会
<http://www.sesame.jp/>

本セミナーのポイント



◇OJTの現状認識、スキルと知識の関係などを学びます。

◇OJTのプロセスを学びます。
(計画と実施は、体験あり)

問題の背景にあるもの

- ①ビジネスの変化、グローバル化の進行
 - 業績プレッシャー
 - 短期的な成果主義、長期的な視野の欠落
- ②世代間ギャップの進行
 - 新卒採用の抑制、2007年問題・・・
 - 逆ピラミッド、洋ナシ
- ③大規模・複雑化、高い付加価値の提供
 - 組込みソフトウェア開発の特徴
 - 急激な組織拡大、新たな技術の適用

人材育成能力の低下

OJT計画シート 記入例

氏名		藤原し花子		指導者	こま次郎	作成日時	2007年4月2日
目標 目標	組織の使命	マイクロコントローラを使ってシステムを開発するお客様へ、迅速でわかりやすいシステム設計・評価環境(マイクロコントローラシステム開発環境)を提供する。					
	担当業務	デバッグGUI設計・評価					
	本人への期待	デバッグGUI設計を通してソフトウェア設計技術を学び、同時に評価技術を見につける。また、マイクロコントローラの動作を理解し、クロス環境下でのデバッグシステム全体を開発できるようにする					
	スキルパス	デバッグの関心を高め、IDEを含めたデバッグ環境を深く理解し、さらにお客様の開発環境を向上できるようなデバッグ環境を開発できる					
現状	現状のスキル	C/C++を使用した設計、コーディングができる					
	伸ばすスキル 身につけるスキル	Windowsソフトウェア設計ができる、Windowsソフトウェアのデバッグができる、Windows GUIソフトウェアの評価ができる 知識とスキルの視点を分けるべき					
スキル 目標	期	スキル名称	現状	目標値	指導方法	達成時期	監視指標
	1	デバッグのテストの実施	未経験	VISIOプロセッサの基本動作およびエビタチップの動作を理解し、デバッグのトレーサの動作を熟知できるようになる。デバッグ評価が標準を受けられるレベルになる	・デバッグの検証作業を通してトレーサの読み方を標準とする ・マイクロコントローラ、デバッグのマニュアル、仕様書を読む	2007/12	標準のテストプログラム デバッグ評価
	2	Windowsソフトウェアの設計	標準を受けられるレベル	デバッグの入力方法を徹底した、顧客の設計とコーディングが一人で行えるレベル	・実際に顧客の設計作業を標準し、設計および評価評価を行う	2007/12	設計書 作成したコードのレビュー
	3	Windowsソフトウェア評価テストの実施	未経験	GUIの動作確認テストができるようになる。標準を受けられるレベル	GUIテスト実施に参画し、テスト作業を行う。	2008/3	動作テスト実施回数

◇OJT計画シートを作成します。

◇傾聴について体験します。



こんな方にお勧めです。

● 技術者・管理者として

- 新しくOJT指導者になった方
- 新しくリーダーになった方
- 後輩とのコミュニケーションで悩んでいる方 など

● 組織施策の企画担当として

- 社内のOJT効率化を検討中の方
- 社内の階層化教育を検討中の方

SESSAME組込みOJTセミナーにご参加ください